

ネット配信版・新つれづれ草に掲載の「私たちのマンガ史」は、東京都江東区・森下文化センターにて2016年10月21日（金）から30日（日）の会期で開催しました、新つれづれ草マンガ展「私たちのマンガ史」で展示した展示物を再構成したものです。

**私たちのマンガ史**  
マンガ家デビュー秘話

1970年代初頭、マンガ家になることを夢に見て、その夢に全力で向かっていったマンガ少年たちがいた！

マンガ家としてデビューしたのか？  
それとも、しなかったのか？  
パネル展示と当時の原画、掲載誌、資料等で今だから語れる、それぞれのマンガ史をご覧ください

手塚治虫の「マンガの描き方」  
石森章太郎の「マンガ家入門」  
雑誌COMの創刊、サンデー・マガジンの大ヒット  
少年ジャンプ創刊、手塚賞・赤塚賞新人賞へ投稿……

イラスト・KINKAN

入場：無料

日時：10月21日（金）～10月30日（日）  
午前9時より午後9時まで（最終日は午後5時まで）

会場：森下文化センター1F展示ロビー

お問合せ：森下文化センター

〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17  
TEL03-5600-8666 FAX03-5600-8677  
都営地下鉄新宿線・大江戸線「森下」駅A6出口より徒歩8分  
都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」駅A2出口より徒歩8分  
<http://www.kcf.or.jp/morishita/>

主催・新つれづれ草 共催・森下文化センター





# 福田達雄

■ 私たちのマンガ史

デビュー作

『どかたの大将』

1970年「少年ジャンプ」



初めて商業誌に作品が掲載されたのは、

1969年、高校1年のときでした。「CO  
M」に『ワンダラー〈放浪者〉』という作品が  
佳作になって掲載されたんです。

宇宙から地球に帰ってきた主人公が、地球が  
ぐちゃぐちゃになっているのを見て、それでま  
た宇宙に戻っていくというストーリーなんです  
が、ちよつと反体制的な傾向があつたと思いま  
す。僕は1970年代安保の世代より少し遅れ  
ていましたが、小学生の頃からストのまねごと  
をしたり、何かというところ「異議なし！」と口  
走ってしまうような子でした。まあ軽い遊びで  
やっていただけなんですけど（笑）。

そのあと1970年に「少年ジャンプ」で  
『どかたの大将』がマンガ賞の佳作に入って、  
掲載されました。

この作品はそのまま掲載されたんですが、年  
に何本か描けと言われて、次の作品『泣くな大  
将』を載せるときは、編集者からいろいろ指摘  
されましたね。

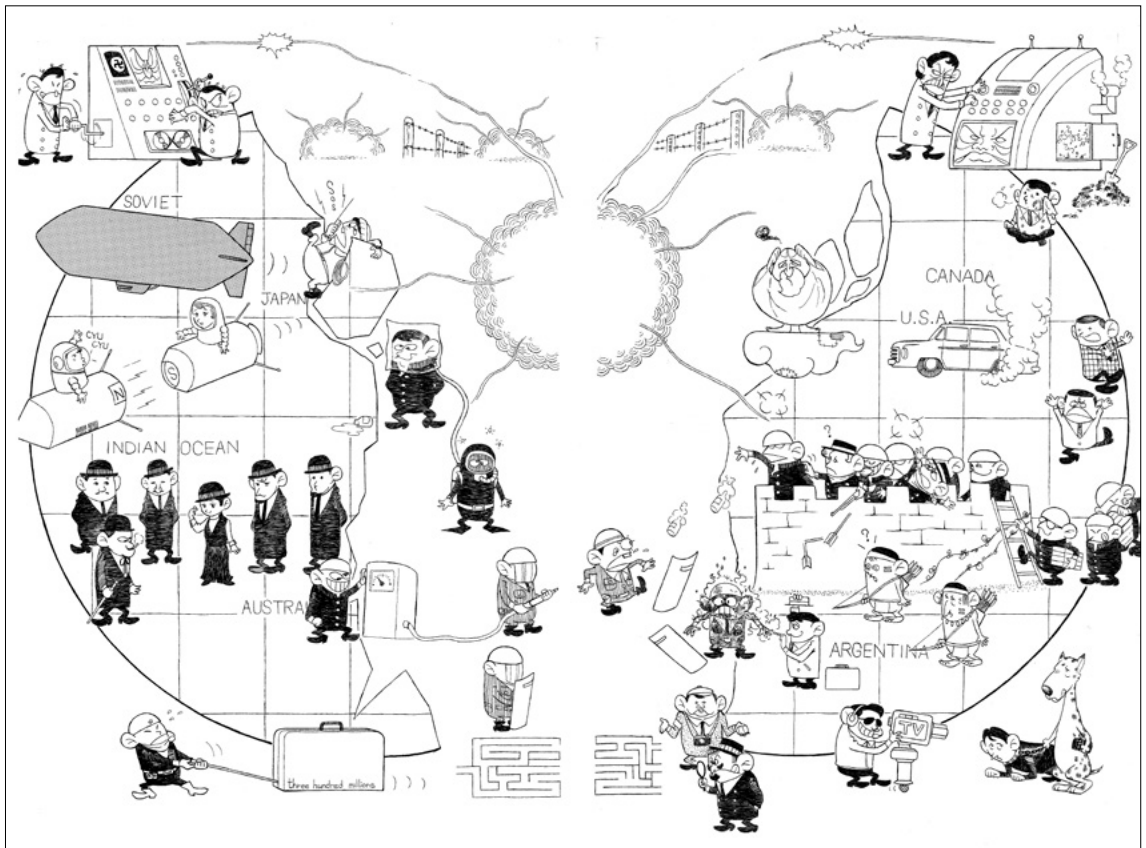
ここを直せ、あそこを直せという感じで。広  
島と東京のあいだで、原稿を送ったりするのを  
繰り返しながらね。それで頭にきて、直せと言  
われた部分だけではなくて、全編最初から描き  
直したんです。それで編集者が「えーっ全部描  
き直したの!？」って驚いて（笑）。あのとき  
は、切ったり貼ったりして直すという発想もな  
かったんです。

「少年ジャンプ」で『どかたの大将』『泣くな  
大将』と掲載されて、次の作品も『大将シリー  
ズ』で行こうということになりました。そのラ  
ストシーンで、登場人物がみんな集まって歌う

んですが、そこでちょっと天皇陛下を皮肉るようなシーンを描いたら、どうもまずかったです。反体的な部分が出たみたいです。それ以来全然仕事が来なくなっちゃった（笑）。

文・新つれづれ草第3号掲載「つれづれインタビューマンガびと」より抜粋加筆

↓ 1969年「COM」に掲載された『ワ  
ンダラー〈放浪者〉』の続編で『CREATOR  
〈創造者〉』1970年初旬の作品から



2016 マンガ展

# 私たちの マンガ史

マンガ家には  
おらなかつた

福 田 達 雄



夏の  
セミの声を聞くと  
なぜかいつも  
マンガ家になろうと  
夢中で描いてた  
少年時代を  
思い出す

## ボクらの時代



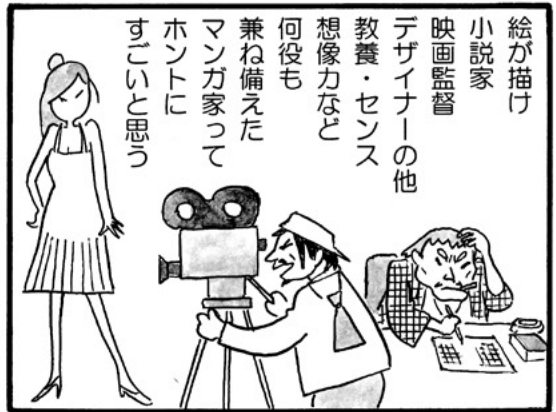
ボクらの時代は  
スクラップブックと  
スケッチブック

今の時代は  
インターネットと  
デジカメ



資料集めの  
環境は  
とてもいい

昔も今も  
描きまくる  
しかない



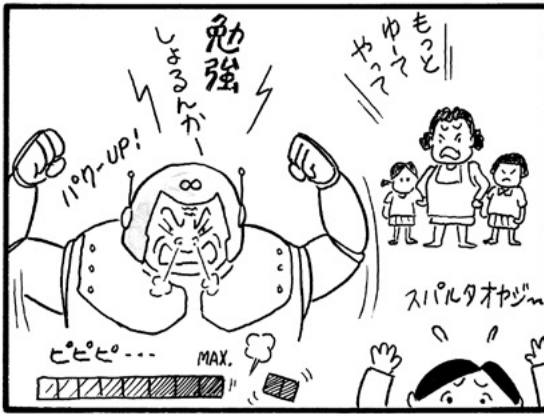
絵が描け  
小説家  
映画監督  
デザイナーの他  
教養・センス  
想像力など  
何役も  
兼ね備えた  
マンガ家って  
ホントに  
すごいと思う



あの時代で  
それをやって  
けん引してきた  
神様

マンガ界の  
ハイメン賞  
や







何を勘違いしたのか

アトムクラブの会誌に4頁のマンガが載っていて



TVドラマ 怪人四十面相 明智小五郎のファンで

主演・中田博久



このくらいなら自分も描けると似顔絵の投稿感覚で

4頁のマンガを2枚の画用紙に描いて送ったのだが

似顔絵ばかりでまた誰かマンガ投稿したん

おもしろいマンガ投稿したん



A5判のノートにボールペンで描いた漫画を (失礼にも未読もの)

それをファンレターと一緒に送った



この作品の批評は散々ですが

「ドラム対決」 福田達也 (広島市観音寺町) かっこいい絵なんだけど、マンガがごまごましてのびのびかかれた線がないおかげで、人物に動きがなく、油力がぜんぜんないよ。バックも細い線が必要以上にこぼれちゃってる。むりやりまじめようとしすぎてるんじゃないかな。もっとおらかに、楽しんでかいた方がいいよ。まんがていちはんだいじなのは、線の省略だっことを知ってお。



丁寧にお礼状とキャプテン・ウルトラのスチール写真を送っていただいた



後日別の「コマ」が再掲載されました「マンガを描く上で注意する例」として

背景の描き込み過ぎ 絵は用紙の画面に描かない など...

おれ教にこのマンガをいっしょに描かっただけ



これがボクがはじめて描いたマンガだった

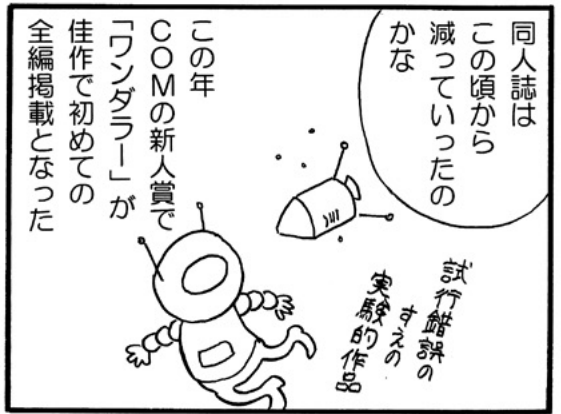
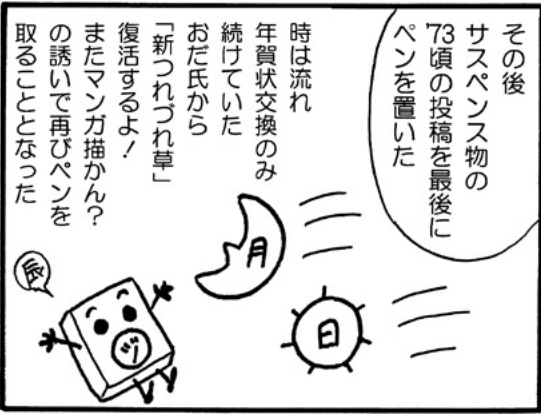
中田さんは、その後悪代官など悪役路線で活躍してく

その後似顔絵は卒業しマンガ投稿始める

'70年~マンガをやめ、そして現在



'69年 肉筆回覧誌と新人賞



2016.9.11